

「防災・減災カレッジ」キックオフイベントを開催



調印式の様子（左から3人目が総長）

「防災・減災カレッジ」キックオフイベントが、6月16日（土）、中区役所ホールにおいて開催されました。

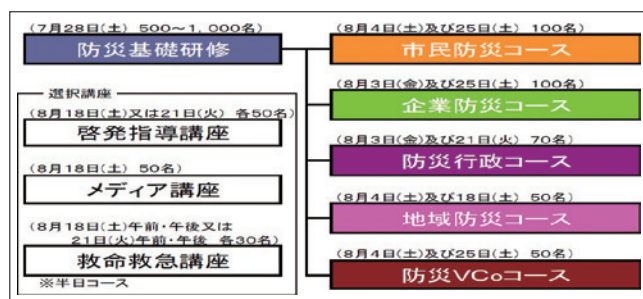
東日本大震災を目の当たりにした今、近い将来に予測される南海トラフの巨大地震の被害を可能な限り減らすために、地域をあげた備えが強く求められています。愛知県ではこれまでも、各機関で防災に関する積極的な取り組みや人材育成が行われてきました。「防災・減災カレッジ」は、あいち防災協働社会推進協議会が主催し、愛知県、名古屋市、愛知県商工会議所連合会、中部経済連合会、防災のための愛知県ボランティア連絡会、なごや災害ボランティア連絡会及び本学の共催で、そのような活動を結集し、産学官民が連携、協働して、地域防災をリードする人材を育成するための新たな取り組みとして計画されたものです。

まず、大村秀章愛知県知事、河村たかし名古屋市長、濱口総長など関係機関の代表により、地域協働による防災・減災のための人材育成に関する協定書の調印式が行われ、続いて同カレッジの概要説明がありました。その後、室崎益輝関西学院大学教授により「地域協働こそ減災の力」と題した特別講演が行われました。室崎教授は、東日本大震災のような巨大災害に立ち向かうためには、地域の協働により様々な面から防災・減災力を高めることが重要だとして、カレッジへの期待を述べました。会場には多数の市民をはじめ、行政、企業の関係者などが参加し、関心の高

さがうかがえました。

防災・減災カレッジは、まず、7月28日（土）に豊田講堂において災害・防災の全体像を学ぶ「防災基礎研修」が開催され、続いて8月に、市民防災、企業防災、防災行政、地域防災、防災ボランティアコーディネータの各コースに分かれた研修が実施されます。選択講座やワークショップも含めて50以上の科目が計画されており、講師は、本学をはじめとする大学の防災関連教員、行政等の防災担当者、災害関連のNPO、ボランティア団体、企業、防災活動や被災経験のある市民など幅広い層が担当することになっています。

本学は、これまでも防災を専門とする教員を中心に「中京圏地震防災ホームドクター計画」を推進し、10年以上にわたり地域の防災力向上に積極的に関わってきました。今回のカレッジでは、新たに設立された減災連携研究センターを中心に、講座の企画や講師の担当、会場提供・運営などを行っています。受講生が実務的な能力を身につけ、それぞれの立場から減災活動を力強く進めていくリーダーとなることが期待されます。



平成24年度防災・減災カレッジのコースツリー

キャンパスクリーンウィークを実施

大学構内環境美化運動「キャンパスクリーンウィーク」が、名大祭終了後の6月11日(月)から15日(金)の間、全学の教職員及び学生の協力を得て実施されました。これは、環境月間である6月に環境保全に対する関心を高めるために行っているもので、12月に行う年末キャンパスクリーンとともに、平成元年から実施されています。名古屋市の一構成員として境界の外周道路清掃も併せて行い、環境美化に努めています。



清掃作業をする職員



事前説明を聞く職員

第79、80回防災アカデミーを開催

第79、80回防災アカデミーが、5月23日(水)、6月12日(火)、環境総合館レクチャーホールにおいて開催されました。

第79回では、護 雅史減災連携研究センター准教授により「来る南海トラフ巨大地震等による自然災害の軽減に向けた地域連携の取り組み～減災連携研究センターのこれから～」と題した講演が行われ、同センター設立に至るまでの10年以上にわたる活動内容や体験学習教材について詳しく説明しました。また、防災人材育成研修プログラムや定期的に実施しているシンポジウムなどを紹介しました。さらに、国、地方公共団体、学会などの南海トラフ地震に対する取り組みについて解説しました。一般の方々など約170名が参加し、今後も開かれたセンターを希望するなどのご意見がありました。



講演する護准教授（第79回）と平川名誉教授（第80回）

第80回では、平川一臣北海道大学名誉教授により「津波堆積物を探して、観て、考えたこと」と題した講演が行われ、東北・北海道の沿岸を詳しく調査した結果に基づき、東北沖・北海道沖を震源とする巨大地震により数百年に一度の大津波が繰り返し発生していることが説明されました。3月に内閣府から発表された南海トラフ巨大地震の津波想定に関しては、津波堆積物の調査はまだ十分ではないと述べ、古くから開発が進められてきた西日本では地層が残っていないことも多いが、地形をよく観察すれば重要な情報が得られるとの今後の展望も示されました。約150名の参加者の関心は高く、参加者からは活発に質問が出されていました。

第80回では、平川一臣北海道大学名誉教授により「津波堆積物を探して、観て、考えたこと」と題した講演が行われ、東北・北海道の沿岸を詳しく調査した結果に基づき、東北沖・北海道沖を震源とする巨大地震により数百年に一度の大津波が繰り返し発生していることが説明されました。3月に内閣府から発表された南海トラフ巨大地震の津波想定に関しては、津波堆積物の調査はまだ十分ではないと述べ、古くから開発が進められてきた西日本では地層が残っていないことも多いが、地形をよく観察すれば重要な情報が得られるとの今後の展望も示されました。約150名の参加者の関心は高く、参加者からは活発に質問が出されていました。